

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

| |
|---|
| 連絡先 福井県農業試験場 病害虫防除室 Tel 0776-54-5100 FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp |
|---|

平成27年農作物病害虫発生予察予報第5号

7月の気象概況

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

[水稲関係]

病害虫名 葉いもち

1 予報内容

発生時期：進展期は7月3半旬、発病最盛期は7月下旬

被害程度：少発、ただし山間、山沿い、常発地では中発

発生量：平年やや多、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 散布剤での防除適期は初発の1週間後である。散布時期が遅れると防除効果が劣るので、注意する。
- (2) 薬剤を散布した圃場でも、上位葉に新たな病斑が見られた場合は、散布10日後に追加防除を行う。
また、粒剤を施用した圃場でも、病斑の発生が認められる場合は追加防除を行う。
- (3) 降雨続きの際は雨のやみ間を見て、雨のやみ間がない時は小雨の時にでも薬剤を散布し、防除が遅れないように努める。
- (4) 直播栽培等熟期の遅い作型では、葉いもちの発生が多くなる恐れがあるので、的確に防除を行う。
- (5) 葉いもちが多発している圃場では穂肥の施用を控えめにする。

病害虫名 早・中生穂いもち

1 予報内容

発生時期：初発は7月6半旬頃

被害程度：少発

発生量：平年、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 出穂直前と穂揃直後の2回、粉剤または液剤で防除する。特に出穂直前の防除は、葉いもち病斑から穂への感染を防ぐために必ず行う。
- (2) 出穂直前の低温や、穂揃期以降に降雨が続くなど多発が予想される場合は、傾穂期にDL剤または液剤で追加防除を行う。
- (3) 防除時期に降雨が続く場合は、雨のやみ間をみて、適期に防除を行う。

- (4) 穂いもちの予防剤は、薬剤によって施用時期が異なるので注意する。葉いもちの見られる水田では、粒剤は施用せず、出穂期に粉剤または液剤で防除する。また、粒剤を施用した水田でも多発が予想される場合には、出穂期に粉剤または液剤で防除する。

病害虫名 白葉枯病

- 1 予報内容
発生時期：初発は平年並みの7月4半旬頃
被害程度：少発
発生量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 粒剤は穂いもちの防除を兼ねて、出穂3～4週間前に散布する。
(2) 常発地では窒素過多にならないようにする。
(3) 畦畔水路の雑草を除去する。

病害虫名 紋枯病

- 1 予報内容
発生時期：垂直進展初期は平年並みの早生7月3半旬、中晩生7月5半旬
被害程度：少発
発生量：平年やや多、前年より多い
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 穂ばらみ期の発生株率が早生では10%以上、中生では20%以上ならば防除が必要である。しかし、倒伏すると進展しやすいので、倒伏が予想される場合は基準に達していなくても防除する。
(2) 8月上旬までに収穫する圃場では穂ばらみ期に薬剤を散布する。
(3) 粒剤を散布した圃場でも、発病株率が高く多発が予想される場合には、粉剤、液剤による防除を行う。また、穂ばらみ期に粉剤、液剤を散布した圃場でも、降雨が続く多発が予想される場合は穂揃期に追加防除を行う。
(4) 8月中旬以降に収穫する圃場で発生が多い圃場は7月下旬に薬剤を散布する。
(5) 散布時には、薬剤が株元の病斑によく付着するように散布する。

病害虫名 ニカメイガ

- 1 予報内容
発生時期：第1世代成虫発生最盛期は平年より早い7月5半旬頃
第2世代幼虫加害初期は平年より早い8月1半旬頃
被害程度：少発、局中発
発生量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 越冬世代の発生が早かったため、第1世代の発生も早いと予想される。そのため、発生の多い所では、7月5半旬から7月6半旬（第1世代成虫発生最盛期から5日後まで）に防除を行う。
(2) 前年発生が多かった圃場および周辺の窒素過多圃場、直播栽培等熟期の遅い作型、もち品種等で多発し、白穂や倒伏等の実害が出るので注意する。

病害虫名 ツマグロヨコバイ

- 1 予報内容
発生時期：発生最盛期は8月3半旬頃
被害程度：少発
発生量：平年、前年並み
- 2 防除対策および防除上の注意点
(1) 6月下旬の時点での発生量は少なく、7月の防除の必要はない。

病害虫名 セジロウンカ

1 予報内容

発生時期：加害盛期は8月3半旬頃

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 7月中旬に1株当たり成虫が4頭以上、7月下旬～8月上旬に1株当たり幼虫が30～40頭以上の場合は防除する。

病害虫名 イネツトムシ (イチモンジセセリ)

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害最盛期は7月5半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 直播栽培において7月下旬の若齢幼虫数で1㎡あたり4.4頭以上の場合は防除する。
(2) 葉色の濃いイネに産卵が多いので、注意する。

病害虫名 イネアオムシ (フタオビコヤガ)

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月5半旬頃

発生程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 過繁茂のイネでは多発生しやすいので注意する。
(2) 山間地など風通しの悪い地域では多発生しやすいので、防除が遅れないようにする。

[ダイズ関係]

病害虫名 ウコンノメイガ

1 予報内容

発生時期：第2世代幼虫加害初期は7月5半旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年並み

2 防除対策および防除上の注意点

- (1) 葉の巻き始める若齢幼虫期の防除が効果が高い。
(2) 山沿いの圃場での発生が多くなる。
(3) 葉色が濃く生育旺盛な圃場で被害を受けやすいので注意する。

[野菜関係]

| 野菜名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|------|------------|---------------|-------------|------------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| スイカ | つる枯病 | 最盛期： 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：多 | 1)排水をよくし、敷きわらを行い、 過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用せず、ローテーシ ョン散布する。 |
| | 炭疽病 | 最盛期： 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：多 | 1)排水をよくし、敷きわらを行い、 過繁茂を避ける。 2)被害葉を除去する。 3)同一薬剤を連用せず、ローテーシ ョン散布する。 |
| | 疫病 | 最盛期： 7月下旬 | 少発 (局多発) | 平年：並み 前年：多 | 1)排水をよくする。 2)予防散布を行う。 |
| キュウリ | うどんこ病 | 最盛期： 7月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：並み | 1)多肥栽培しない。 2)同一薬剤は連用せず、ローテーシ ョン散布する。 |
| | べと病 | 最盛期： 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：少 | 1)排水をよくし、敷きわらを行い、 通風、採光をよくする。 2)肥料切れを避ける。 |
| ネギ | さび病 | | 少発 | 平年：やや多 前年：やや多 | 1)肥料不足や窒素過多にならないよ うにする。 |
| 全般 | アブラムシ 類 | 加害盛期： 7月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：並み | 1)対象作物により薬剤が異なるので 注意する。 |
| | ハダニ類 | 加害盛期： 7月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：少 | 1)対象作物により薬剤が異なるので 注意する。 |

[果樹関係]

| 果樹名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|-----|------|---------------|-------------|----------------|---|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| ナシ | 黒星病 | 最盛期： 7月中旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや多 前年：多 | 1)同一系統薬剤の連用は避ける。 2)発病部位は除去し園外で埋却等適 切に処理する。 3)枝が込み合っている場合は剪定し て風通しを良くする。 |
| | 黒斑病 | 最盛期： 7月下旬 | 少発 | 平年：少 前年：並み | 1)同一系統薬剤の連用は避ける。 2)発病部位は除去し園外で埋却等適 切に処理する。 3)枝が込み合っている場合は剪定し て風通しを良くする。 |
| | ハダニ類 | 加害初期： 7月上旬 | 少発 (局中発) | 平年：やや少 前年：少 | 1)発生を確認したら早めに防除す る。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。 |

| 果樹名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|----------|-------------------------|---------------|-------------|--------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| ナシ カキ | カメムシ 類 | 加害盛期： 7月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：少 前年：少 | 1) 発生を確認したら早めに防除する。 2) 同一系統薬剤の連用は避ける。 |
| カキ | アメリカ シロヒトリ (第1世代) | 加害盛期： 7月上旬 | 少発 (局中発) | 前年：並み | 1) 発生を確認したら早めに防除する。 |

[花き関係]

| 花き名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防除対策および 防除上の注意点 |
|-----|------------|---------------------|-------------|-----------------|---|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| キク | 白さび病 | | 少発 | 平年：多 前年：多 | 1) 罹病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2) 日当たり、風通しを良くする。 3) 同一系統薬剤の連用を避ける。 |
| | アブラムシ 類 | 加害盛期： 7月下旬 | 少発 (局中発) | 平年：並み 前年：やや多 | 1) 同一系統薬剤の散布回数を減らし、連用を避ける。 |
| | オオタバコ ガ | 幼虫加害 初期： 7月中旬 | 少発 | 平年：やや少 前年：並み | 1) 若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2) 同一系統薬剤の散布回数を減らし、連用を避ける。 |